

英語の基本5文型とは？例文と見分け方 (show me ~ / call it ~)

show + 人 + 物

I will show you a Merlion.

この文章って不思議な形をしているよね。

今までだったら、I'll see a movie.や I can play the piano.のように、

動詞のあとの単語(名詞)は一つだけで、「~を…する」という意味になっていたよね。

それがshowの場合は後ろに名詞が二つついていて、show you a Merlionという形になっている。

I will show you a Merlion.

主語
~は

動詞
~する

目的語①
~に

目的語②
~を

⇒ ①に②を見せる

これは「show + 人 + 物」で「人に物を見せる」という英語の文型なんだ。

このように英語の動詞には、後ろに名詞(目的語と言う)を二つ持ってくることができる単語があるんだ。

「show + 物 + 人」の順番にはできないの？と思うよね。これは、必ずこの順番にしないとけないんだ。

詳しく見てみよう。

日本語の場合、

- ・「私は彼に私の電話番号を教えます」⇒主語+目的語①+目的語②+動詞
 - ・「私は私の電話番号を彼に教えます」⇒主語+目的語②+目的語①+動詞
 - ・「彼に私は私の電話番号を教えます」⇒目的語①+主語+目的語②+動詞
- のように、順番を変えても意味が通じるよね。

でもこれを英語で

「I'll tell him my number.」とは言えるんだけど、

「I'll tell my number him.」とは言えないんだ。



I will tell him a number.

主語 動詞 目的語① 目的語②
 ~は ~する ~に ~を

彼に番号を伝える ⇒ OK

I will tell a number him.

主語 動詞 目的語① 目的語②
 ~は ~する ~に ~を

番号に彼を伝える ⇒ ?

それは日本語の場合は、「助詞（てにをは）」があるおかげで、ある程度順番を無視しても意味が伝わる。

だけど英語にはそれがないから、その代わりに語順が意味を作っているんだ。英語の並び順って大事なんだね。詳しくは下の「第四文型」で説明するよ。

call + it + 呼び方

People call it a Singapore Flyer.

今度は” call + 人/もの + 呼び方”のパターンを見てみよう。

People call it a Singapore Flyer.

主語 動詞 目的語 補語
 ~は ~する ~を ...と

⇒ ~を...と呼ぶ

この文章も似たように「call」という動詞の後に「it」と「a Singapore Flyer」という名詞が二つ付いている。

でも上の「show you a Merlion」と違うんだ。

どちらも「動詞 + 名詞(代名詞) + 名詞」になっているし、違いがわからないよ！と思うよね。

すごく似ているよね。だけど明確に違いがあるんだ。詳しく見てみよう。



call it a Singapore Flyer.の場合は「it = a Singapore Flyer」が成り立つんだ。

People call it a Singapore Flyer.

It = a Singapore Flyer

be動詞を使って

It **is** a Singapore Flyer ともいえる

例えば、

「Please call me Taro.」 (私をタロウと呼んでください)

⇒私 = タロウ(I am Taro)

「The book made us happy.」 (その本は私たちを幸せにした)

⇒私たち = 幸せ(We are happy)

という形が成り立つよね。

show you a Merlionの時は、「あなた ≠ マーライオン」だよ。

つまり、動詞の後ろの二つの単語を見て、

- ・一つ目の単語 = 二つ目の単語が成り立つ場合はこちらのグループ「第五文型」
- ・成り立たない場合は上のグループ「第四文型」

詳しくは下の「第五文型」で説明するよ

五文型について

ここまで見てきたように、英語の並び順には重要な意味がある。

そしてそのパターンが5つあるんだ。

さっきも言った通り、順番を変えてしまうと意味が全く変わってしまう。

これが、英語において五文型を一番理解しておくべき理由なんだ。

文型を理解しておけば、並び替え問題は怖くないよ！



五文型の種類

まず五文型と言われる基本の形を表で見てみよう。

	主語 S	動詞 V	目的語 O1	目的語 O2	補語 C
①第一文型	I	fly			
②第二文型	He	is			busy
③第三文型	She	plays	tennis		
④第四文型	I	gave	him	a present	
⑤第五文型	We	call	her		Mary

- ・第一文型 主語 + 動詞
- ・第二文型 主語 + 動詞 + 補語
- ・第三文型 主語 + 動詞 + 目的語
- ・第四文型 主語 + 動詞 + 目的語1 + 目的語2
- ・第五文型 主語 + 動詞 + 目的語 + 補語

の5種類になる。

必ず英語は「主語 + 動詞」は含まれているんだけど、その後ろの部分が文型によって異なっているんだ。

一つずつ詳しく例を見ていこう。

第一文型

[主語 + 動詞]

「～は…する」という基本的な形がここに入るよ。

第一文型

I run (in the park).

主語 動詞

I run in the park. (私は公園で走る)

I work at the shop. (私はその店で働いている)

のように、主語と動詞だけで成り立っている文が第一文型だよ。



このパターンでよく使われる動詞は

- ・ run (走る)
- ・ walk (歩く)
- ・ work (働く)
- ・ fly (飛ぶ)

“in the park”とか“at the shop”とかついているから主語と動詞だけじゃないよ？と思うよね。

「公園で」や「その店で」などの前置詞(in, on, atなど)で始まる文がついても、それは修飾語と言って文型の考え方には含まないんだ。だから前置詞でつながっているところはカッコにして考えよう。

第二文型

[主語 + 動詞 + 補語]

「～は…です」という意味になるのが多いよ。

第二文型

I am a student.

主語 動詞 補語

I = a student の関係

- ・ I am a student. (私は学生です)
- ・ It looks delicious. (それはおいしそうに見える)

等のように、主語 = 補語の関係になっているものは第二文型になるよ。

よく使われるのは、

- ・ be動詞
- ・ look / sound / taste / smell / seem などの五感を表す動詞
- ・ become / get などの状態の変化を表す動詞

だよ。

“It looks delicious”は“It is delicious”って言い換えられそうだね！

第二文型の場合、動詞をbe動詞に置き換えても文法的に正しいことが特徴なんだ。



第三文型

[主語 + 動詞 + 目的語]

第三文型

Mr. Brown teaches English.

主語 動詞 目的語

[目的語]を…する の関係

目的語というのは、動作を行う対象のことで「私は～をする」の「～を」のことだよ。

- ・ I make a breakfast. (私は朝食を作る)
- ・ She broke her arm. (彼女は腕を骨折した)

のように、動詞の後ろにある部分が目的語なんだ。

基本的には「～を」のことを目的語だと理解しておこう。

第四文型

[主語 + 動詞 + 目的語① + 目的語②]

第四文型

I will show you a Merlion.

主語 動詞 目的語① 目的語②

～は ～する ～に ～を

⇒ ①に②を…する

今回のメイン単元の「show + 人 + 物」はここになるんだ。

ここで使われている動詞を使うと、[動詞 + A + B]で[AにBを…する]という表現になるよ。

- ・ He gave me a book. (彼は私に本を贈った)
- ・ She bought her daughter a present. (彼女は娘にプレゼントを買った)
- ・ Tom told his father the story. (トムは父親にその話をした)



ここで使われている動詞はあまり多くないので、しっかり覚えておこう。

- ・ give
- ・ tell
- ・ show
- ・ send
- ・ teach
- ・ cook
- ・ make
- ・ buy

「教える」「伝える」「買う(買ってあげる)」など「人にしてあげる」というイメージの動詞が多いんだよ。

第五文型

[主語 + 動詞 + 目的語 + 補語]

第五文型

The news made me sad.

主語 ～は	動詞 ～する	目的語 ～を	補語 [状態]に
----------	-----------	-----------	-------------

[目的語] = [補語]の関係

もう一つの単元[call it ~]はこちらの文型だよ。

第二文型と同じく「補語」が出てきたね。

これは「目的語」を説明する役割があるんだ。

「me = sad(私は悲しい)」のように、目的語と補語がイコールでつながる関係はこのパターンになるよ。

They called the baby Mary. (彼らはその赤ん坊をメアリーと呼んだ)

⇒ the baby = Maryの関係

He kept me waiting. (彼は私を待たせた)

⇒ me = waitingの関係

第二文型の主語と補語の関係が、第五文型だと目的語と補語の関係になるんだよ。少し難しいけど頑張ろう。



覚え方

全体を通してストーリーで考えてみよう。

①ある男が立っています。

A man stands.

②彼は先生です。

He is a teacher.

③彼は英語を話しています。

He speaks English.

④彼は私たちに英語を教えています。

He teaches us English.

⑤彼は私たちに優秀な生徒にします。

He makes us good students.

第一文型 A man stands.

主語

第二文型 He is a teacher.

動詞

第三文型 He speaks English.

目的語

第四文型 He teaches us English.

補語

第五文型 He makes us good students.

このストーリーを覚えて、五文型も覚えていこうね！

